

授業科目名 (英文表記)	世界農業遺産 (Globally Important Agricultural Heritage Systems)		
単位数	2 (学部生のみ)	授業形態	講義・演習
担当教員	養父 志乃夫、原 祐二 (多様なゲスト講師・現地ステークホルダーの支援も得る)		
開講	南紀熊野サテライト	区分	学部開放科目
実施日・時間	① 12月9日(土) 13:00~17:00	システム工学部	養父 (武内和彦)
	② 12月16日(土) 13:00~17:00	システム工学部	原 (高橋純一、石神忠夫)
	③ 12月17日(日) 13:00~17:00	システム工学部	原 (原 祐二、松本 貢)
	④ 2月3日(土) 13:00~17:00	システム工学部	原

【授業のねらい・概要】

みなべ・田辺の梅システムが世界農業遺産に認定されたこともふまえ、世界農業遺産とは何か、当地の農業遺産のシステムと生態系の価値について、一般的な生態学の知見も交えながら、座学と現地生態系演習により習得する。地元世界農業遺産協議会の全面的な支援のもと、将来的な農業遺産のシステムを説明・活用できる人材を育成する。

本講義は「みなべ・田辺地域世界農業遺産推進協議会」による寄附講義である。

【授業計画】 ※記載の内容は、変更することもあります。

第1回 12月9日 13:00~17:30 (会場:ビッグユウ、現地踏査:石神梅林)

1. 世界農業遺産と日本 (武内和彦・東京大学特任教授) ビッグユウ
2. みなべ田辺の梅システム (養父) ビッグユウ
3. 現地踏査 (養父) 石神梅林

第2回 12月16日 9:00~18:00 (会場:午前中ビッグユウ; 昼食後、午後演習:梅振興館、他)

4. 梅システムのランドスケープ評価 (原) ビッグユウ
5. 梅システムとニホンミツバチ (高橋純一・京都産業大学准教授) ビッグユウ
昼食(梅料理評価)
6. 梅システムの歴史 (梅振興館)
7. 生態系現地演習 (石神梅林)
8. ステークホルダー調査演習 (石神梅林・石神氏)
ステークホルダーミーティングおよび食文化調査 (夕食交流会)

第3回 12月17日 9:00~12:30 (演習先:清川)

9. 備長炭生産調査 (清川・原氏からの指導と意見交換)
10. 薪炭林持続性調査 (清川・松本氏からの指導と意見交換)
11. 役場・協議会担当者による申請プロセス、合意形成、今後の展望の説明

第4回 2月3日 9:00~16:00 (演習先:石神梅林、会場:ビッグユウ)

12. 観梅状況・ランドスケープ調査 (石神梅林)
13. 班別作業 (ビッグユウ) 昼食 (ビッグユウ地産地消レストラン)
14. まとめ発表 (ビッグユウ)
15. 梅システムの今後の展望、総括 (ビッグユウ)

【到達目標】

世界農業遺産の概念と梅システムの特徴について、社会生態学的観点から理解を深め、他者に対し現地で科学的・論理的に説明できるようになること。

【教科書】

特に定めません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書・参考文献】

梅システム申請書など、右記よりダウンロード可能 <https://www.giahs-minabetanabe.jp/>

【授業時間外学習】 (学部生用には必須、学部開放授業受講者用は任意。共通でも可)

本授業の授業計画に沿って、準備学習と復習を行ってください。さらに、授業内容に関連する課題に関する調査・考察を含めて、毎回の授業ごとに自主的学習を求めます。

【履修上の注意・メッセージ】

多くの現場の方々に支えられたカリキュラムであり、受講者は極力全日程参加すること。また、受身にならず、積極的に議論に参加し、自己成長を希求すること。みなべ田辺地域に関心を持ち、かつ客観的に梅システムを世界・日本の農業システムの中に位置づける熱意を有すること。PCやタブレットがあれば各自持参すること(必須ではない)